



ひまわりノ畠

教育目標 思索・和敬・剛健
R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう



<http://www.kyose.ed.jp/kyoseidejotyu/gakkou/index.htm>

春は桜、さくら 夏に百日紅、さるすべり 秋には金木犀、きんもくせい そして冬に山茶花さざんか

正門の垣根に並ぶ、7本の山茶花（サザンカ）が、満開を迎えています。五中には、淡い桃色と薄紅色、白色の三色があり、バラに似た八重咲きの花はやや小ぶりですが、日を追うごとに、蕾が開き、咲いた順から花びらを散らせて、道に絨毯を敷いたように、素敵な風景となっています。

11月下旬、「花のチカラプロジェクト」で苗を植えて頂いた花壇は、色鮮やかな冬の花壇になっています。地域や保護者の皆様、生徒や教職員の協力で、五中の花壇は、一年中花が咲いています。ありがとうございます。そして敷地内には、創立当時に「学校の中にも、清瀬の豊かな自然を作ろう」と、多彩な植林が行われ、春に杏子と桜、初夏のハナミズキに真夏の百日紅、秋には金木犀、そして冬の山茶花と、樹木たちも、四季折々の花を咲かせてくれています。先人の方々からの贈り物ですね。



サザンカは、冬のイメージがありますが、自生地は九州や南西諸島、台湾などの暖かい地方で、ツバキ科の仲間です。自生種の花びらは5~6枚ですが、学校にある品種は八重咲に改良された園芸品種で、沢山の花びらがついています。これは雄しべが変異したもののように見えます。ツバキと花は似ていますが、散る時にツバキは花全体が、ボソッと落ちますが、サザンカは、花びらを一枚ずつハラハラと落とすので、木の根元の様子を見るとわかりやすいです。今は毎朝、落ちた花びらを用務主事さんや特別支援教室専門員の方々が、掃いてくださっています。ありがとうございます。

山茶花は、清瀬市が昭和48年に選定した「市の花」です。童謡「たきび」の歌詞に「さざんか さざんか さいたみち たきびだ たきびだ おちばたき ~」とでてくる冬を代表する花で、ブロック塀が普及する前は、垣根などによく使われていた樹木です。今は家や道端で、安易に焚火などはできませんが、数十年前、生徒たちと落ち葉掃きをした後、その落ち葉で焼き芋をしたことは、懐かしい、昔話です。

●サザンカの下、朝の「あいさつ運動強化週間」 もと 12/1(月)~5(金) 生徒会

先週は、生徒会本部が企画した「あいさつ運動強化週間」でした。毎朝、生徒会と専門委員長・副委員長、そして各学年の学級委員で、曜日を分担して、生徒玄関に立ち、登校してくる生徒の皆さんに、朝の挨拶をかけてくれました。朝の冷え込みで、ヒンヤリとした空気の中、「おはようございます」と、軽やかな声が響いていました。寒くなり、背中を丸めて、目線を下げて歩きがちになる季節ですが、挨拶をするときに、顔を上げて、笑顔のface to faceで、目線を合わせると、冬晴れの空が目に入り、気持ちも上がります。挨拶で始まる一日は、やる気スイッチが入ります。



※あいさつ運動の様子動画は、右上のQRコードよりご覧になれます。12月末日までの限定公開です。

●1月の「英検申込」がありました。 12/5(金)

1月に実施する今年度ラストの英語検定の受付を行いました。今回は、1・2年生が中心となりますが、3年でもチャレンジする生徒があり、30名以上の生徒が申し込みをしてくれました。現在、3年生は受験の面接練習をしていますが、「漢検や英検などの級を持っていることを、志望校が評価してくれました。」という話を聞きます。英検3級から面接式スピーチング技能試験があり、難易度が中学校卒業程度となっていますので、ここが一つの目安です。今回、準2級（高校中級程度）にチャレンジする生徒もいますが、検定試験は、何回も挑戦することができて、さらに一度獲得した級は、一生下がることなく、最近は国家資格などと同じように履歴書に記載もでき、大学の推薦入試や企業の採用試験では、応募条件にしているところもあります。キャリアアップの1つと言え、将来的には2級（高校卒業程度）を持っていると、すごく役立つと思います。ぜひチャレンジしてみましょう！



R7年 最後を飾る ふたご座流星群

～ 冬の夜空に流れ星 12/13(土)・14(日)の夜がチャンス！～

師走に入り、いよいよ令和7年もあと20日ほどになりました。星空も、最後の流星群となる天体ショーもいよいよラストとなるふたご座流星群が、今週末にやってきます。1年間で、主な流星群は11群ありますが、その中でも、正月の「しぶんぎ座流星群」と、真夏の「ペルセウス座流星群」、そして冬にやって来るこの「ふたご座流星群」は、毎年活発に活動をするので、三大流星群と呼ばれています。冬の夜は空気も澄んでおり、この時期、関東地方では晴れることが多く、もっとも観測が期待できる流星群です。目が闇夜になれるには、15分程度かかるそうですので、最初は見えなくても、しばらく空を見上げて、最短でも30分は観測すると良いと思います。この季節は、ぐんと冷え込むので、暖かい格好を忘れずにしましょう。

好条件で、1時間に30~50個の期待！

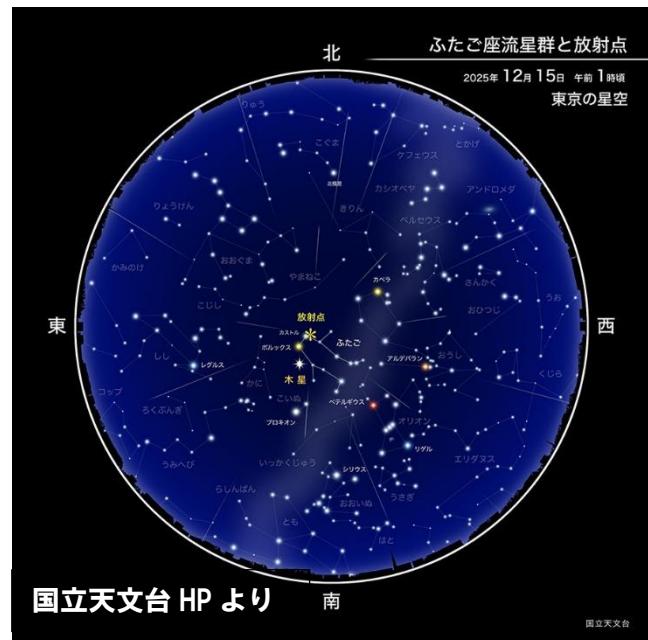
計算上での極大は、12/14(日)の午後5時頃だそうですが、13日(土)夜～14日(日)の朝方までと、14日(日)の夜～15日(月)の朝方まで、二夜連続で多く出現しそうです。

この時期、放射点があるふたご座は、冬の星座なので真夜中には天頂付近にいます。放射点の高度が高いほど、観測できる確率は高くなるので、街灯がなく、夜空が暗い場所だと、1時間に30~50個の流星が期待できるそうです。

清瀬は街灯りがありますので、明るい流星でないと見つけられないので、数分の一になるかもしれません。

月も下弦で、あまり邪魔にならない！

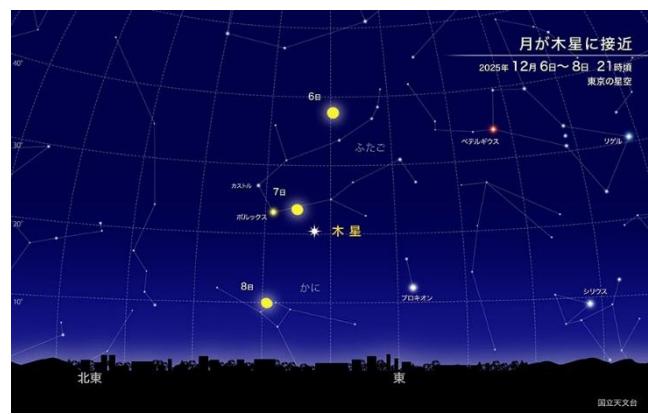
流れ星や天体観測などで、邪魔になるのは月の明るさです。今回は、下弦の半月を過ぎた頃で、月の出も遅く、夜遅れほど影響はないと思います。



■ふたご座1等星カストル&ポルックスと、木星と月が、大接近中です。

ふたご座には、白色のカストルと、やや黄色を帯びたポルックスという2つの1等星があります。ふたご座の足元にあるオリオン座にも、赤いベテルギウスと青い光を放つリゲルという1等星があり、さらに冬の夜空には、レモン色のカペラ(ぎょしゃ座)、オレンジ色のアルデバラン(おうし座)、青白色のシリウス(おおいぬ座)、黄色のプロキオン(こいぬ座)と、全部で8個の1等星があり、とても華やかです。良く観察すると、それぞれ色が違います。空が明るくて、暗い星たちが見えず、星座がよくわからない時は、色で判断できます。比べてみてください。

そして現在、ポルックスの近くには、1等星たちよりも明るく、金色に輝く木星がいて、さらに6~8日の間には、は



詳しい説明は、下のHPにアクセスしてみよう！

■ 国立天文台 HP

- ①ほしざら情報「ふたご座流星群が極大（2025年12月）」
<https://www.nao.ac.jp/astro/sky/2025/12-topics03.html>

②ほしざら情報「東京の星空・カレンダー・惑星（2025年12月）」
<https://www.nao.ac.jp/astro/sky/2025/12.html>

